

●現代への疑問と不満を抱き、矛盾の解決をめざす人びとへ——ここHOWSで、真実の思考を追究しよう！

1、『創造としての革命 運動族の文化・芸術論』をめぐる

思想としての文学・芸術を一貫して追求した武井昭夫の、生前十数年の文章が一本にまとめられた。とりあげられる対象は、文学・映画・演劇・サークル運動論など多岐にわたるが、その全場面に、運動族としての武井の姿が躍動している。武井が追求した批評運動、創造運動、政治と文学のあるべき関係など、われわれが受け継ぐべき課題は多い。腐敗の極にあるこんにちの文化・イデオロギー状況に風穴をあけるべく、激烈な討論を展開したい。

第12期後期 開講講座

10月29日(土) 午後1時～
花田清輝と武井昭夫

——『創造としての革命 運動族の文化・芸術論』
(武井昭夫著・スペース伽耶刊)をめぐる

報告＝湯地朝雄 (文芸評論家)

進行＝立野正裕 (明治大学教授)

②12月3日(土)「教育を受ける権利」を手がかりに

報告＝藤原 晃 (神奈川高教組)

③1月21日(土) 創造運動の論理——ズリ山の火を消すな

講師＝荒川源吾 (歌人、元・古河電産労組文学サークル) / 鎌田哲哉 (批評家、『重力』編集会議)

④2月18日(土) 戦争・戦後責任と天皇制、朝鮮問題

講師＝李英哲 (朝鮮大学校教員) / 遠藤裕二 (編集者)

2、壊憲反対・ストップ憲法審査会！ 沖縄・安保を問う

野田新政権では改憲策動が急ピッチで進む。民主党は、5月10日の常任幹事会で党憲法調査会を設置し、前原誠司前外相を会長にあてた。参議院本会議は、5月18日、壊憲手続法にもつき改憲原案の審査権限を持つ憲法審査会の規程を採決。あとは委員を決めればいつでも憲法審査会を始動できる。民主党は、早くも衆議院憲法審査会会長に大島元国交相を内定した。改憲を発議する要件を衆参両院の「三分の二」から「過半数」にすることを狙う。憲法審査会始動と憲法96条改憲が憲法問題の焦点になりつつある。

①11月25日(金) 原発撤廃・ストップ憲法審査会！ 憲法96条“改正”を許さない11・25集会 (HOWSも実行委員会に参加)

②2月11日(土) 八重山の教科書採択問題にみる沖縄県民の戦争・平和意識

講師＝仲井間郁江 (『琉球新報』記者)

③2月29日(水) 憲法破壊の司法反動化

「日の丸・君が代」など不当判決、逮捕・捜査差押令状たれ流し司法を暴く。講師＝山口正紀 (ジャーナリスト)

新田 進 (労働運動研究／小川町シネクラブ)

④3月17日(土) サンフランシスコ講和会議から60年——ここまで来ている教育を通じた壊憲思想づくり

講師＝高嶋伸欣 (琉球大学名誉教授) / 憲法違反の安保条約とセットに講和条約は、天皇の戦争責任を免責し、アジア人民への戦争犯罪責任を放棄、朝鮮や中国政府を抜きにして調印された。壊憲に向けた学校教育が、この間、いかに悪用されてきたかを見ていく。

3、労働運動の現場が社会変革の未来を切り拓く！

東日本大震災という未曾有の災害と救援、30年におよぶ国鉄闘争の終結と闘いの継承、社会保険庁・JALと続く不当解雇撤回を求める闘い、正規・非正規の壁を超えて労働者の権利をまもる郵政現場の課題。いままとも考え行動すべき労働運動の諸課題を、それぞれ第一線で担う労働運動活動家を迎えて、熱くディスカッションする。現場から未来をみつめる視点と行動が、社会を変える。

①11月19日(土) 東日本大震災と労働組合

講師＝鳥井一平 (全統一労働組合副委員長、名無しの震災救援団)

②12月7日(水) 結審間近のJAL争議と社保庁の解雇をめぐる

講師＝内田妙子 (CCU委員長、JAL不当解雇撤回裁判原告団団長) / 飯塚 勇 (全厚生労働組合前執行委員長)

③1月28日(土) 国鉄闘争の成果と教訓を継承する運動を！

講師＝二瓶久勝 (元国鉄闘争共闘会議議長)

④3月10日(土) かつての全通運動から学ぶもの

—— 一分会役員の経験から
講師＝山田 勇 (元全通東京中郵支部第一特殊郵便分会書記長) / 進行＝土田宏樹 (J P 労組)

4、深まりゆく資本主義の危機と社会主義の未来

社会主義世界体制の消滅から20年。勝利の美酒に酔い痴れたのは束の間、資本主義はいまや見る影もない。体制の維持・延命のための伝統的手段を使い果たし万策尽きた感がある。残るは人民の収奪あるのみ。蟻地獄から脱出しよう。社会主義こそが資本主義の危機に対する唯一の回答なのである。

①11月5日(土) ロシア十月社会主義革命94周年記念集会

ソ連解体から20年、世界はどう変わったか
報告＝山下勇男 (社会主義理論研究)

②1月25日(水) ドイモイ25年目のベトナム

—— 市民による政治改革の要求
講師＝中野亜里 (大東文化大学教授) / 進行＝山口正紀 (ジャーナリスト)

③2月4日(土) 社会主義キューバのいま

—— 世界経済の危機と第6回大会 (2011年4月)

ゲスト＝2011年7月関西キューバ訪問団

④3月14日(水) 社会主義こそ未来だ！

—— 第13回共産党労働者党国際会議 (2011年12月、於アテネ)

報告＝＜活動家集団 思想運動＞理論研究部

5、現場から原発問題を考える

福島第一原発の過酷事故から半年余、収束の見通しはまったく立たず、原因究明と安全対策はなおざりのまま、野田政権は「来年夏までに再稼働」を宣言し始めた。引き上げられた放射能の上限線量のもとで原発労働者はまさに死の労働を強いられ、周辺住民は展望の見えない避難生活や高濃度の放射線曝露を余儀なくされている。非人間性の塊である原発はいらない——この声を高く大きく力強く広げよう。現場で原発の悲惨と向き合う方々とともに、原発のない社会への方途を探る。

①11月26日(土) 福島原発被災地の現場から

講師＝国分富夫 (南相馬からの原発避難者)

原発事故の被災地、南相馬市で40年間郵便局に勤務。全通の組合員として活動、また原発建設反対運動に参加。震災直後に南相馬から南会津町に避難。避難者の会をつくり問題解決・交流を深める。

②12月17日(土) 福島原発事故から9か月

—— なにが起き、これからどうなるのか

講師＝今中哲二 (京都大学原子炉実験所助教)

③2月1日(水) 原発の安全性に関する立法・行政・司法のスタンス

講師＝青木秀樹 (弁護士)

福島原発事故で甚大な被害が発生し、継続している。このような重大事故は起きないと言う安全神話を電力会社、保安院は流布していた。その源は何か。法律は原発の安全性をどのように捉えていたのか、行政はどの程度の安全性を想定していたのか、司法はなぜ一基も原発を止めなかったのかを考えてみたい。

④3月21日(水) 震災後の学校と子ども

—— 給食の現状と子どもの被曝

報告＝栗原美子 (学校栄養士)

6、映像から原発問題を考える

東日本大震災による福島原発の放射能漏れは、政府、東電が何の策も講じられないまま、収束するどころか全国で放射能が検出されている。ひとたび事故が起これば、このような事態になることは明らかだった。原発をテーマにした映像作品はこれまで数多く作られてきたが、このシリーズではそのなかから3本を選び、作品を観て原発をめぐる問題を参加者とともに考えたい。

①11月2日(水) 『原発切抜帖』(1982年 45分 監督＝土本典昭) 『源八おじさんとタマ』(2010年～2011年 全5作 10分3秒 制作：中村 徹) 原発の問題点をアニメでわかりやすく解説した作品。

解説＝木下昌明 (映画評論家)

新田 進 (小川町シネクラブ)

②12月10日(土) 『へばの』(2008年 81分 脚本・監督：木村文洋)

青森県六ヶ所村を舞台に核燃料再処理工場で働く青年とその婚約者、婚約者の父親(父親も再処理工場建設からの労働者)の関係を軸に、再処理工場働く労働者たちの葛藤を描いた劇映画。

ゲスト＝木村文洋 (『へばの』監督)

③3月7日(水) 『隠された被曝労働 日本の原発労働者』

(1995年 24分 制作：イギリス・チャンネル4 日本語版制作：岩佐基金) 写真家の樋口健二氏が制作したドキュメンタリー。原発労働者の実態を暴露した作品。

ゲスト＝岩下雅裕 (福島原発事故緊急会議・電力総連申し入れプロジェクト、立川自衛隊監視テント村)

7、非正規で働く女性 53.8% —— 均等法とは何だったのか

1986年に労基法改憲とセットで男女雇用機会均等法が施行されて、女子保護規定は妊娠出産関連に限定された。同年の労働者派遣法成立、その後も続く労基法改憲と相まって、男女を問わず労働条件の切り下げが進行してきた。大震災後の失業が深刻化するいま、女性の権利擁護の闘いについて改めて考える。

①2月8日(水) 均等法25年目の現実とどう闘うか

報告＝本郷文化フォーラム女性労働問題研究会
複数の報告者によるパネル形式での報告・討論会

②3月4日(日) 国際婦人デー集会

起ちあがろう！ 原発撤廃・改憲阻止・女性の権利擁護を掲げて (仮題)

8、日本の短編小説を読む

日中戦争から太平洋戦争を経て原爆投下と敗戦にいたるまで、その時代を生きた人々の苛烈な生と死の交錯を見つめる。

講師＝立野正裕 (明治大学教授) (各回午後7時～)

①11月16日(水) 石川淳作『マルスの歌』

(『石川淳短編小説選』ちくま文庫)

②12月14日(水) 大岡昇平作『捉まるまで』(『俘虜記』新潮文庫)

③1月18日(水) 島尾敏雄作『出発は遂に訪れず』

(『その夏の今は・夢の中での日常』講談社文芸文庫)

④2月15日(水) 大田洋子作『半人間』(講談社文芸文庫)

9、この人に聞く

①11月9日(水) 韓統連の入国不許可問題

—— 李明博政権の人権侵害状況

講師＝朴南仁 (在日韓国民民主統一連合国際局長)

②2月25日(土) 写真家が語る沖縄

—— 基地・自然・闘う人々

講師＝山本英夫 (フォトグラファー)

③3月31日(土) 戦後の歴史教育に欠けているもの

—— アジアの女性の視点から

講師＝中原道子 (『戦争と女性への暴力』リサーチアクションセンター)

◎HOWS付属ゼミナール

HOWS本科生と聴講生は、有志参加による下記ゼミナールに参加できます。参加費は各ゼミ毎に別途お支払いください。

①戦後文学ゼミ

チューター＝山口直孝、松岡慶一

2000年より武井昭夫、湯地朝雄をチューターとしてはじまった戦後文学ゼミは、戦後文学を運動論の視点から捉えて検討し、文学運動の今日における再生を探ろうとする研究会です。これまで、宮本百合子、中野重治、佐多稲子、花田清輝、大西巨人、武井昭夫の仕事を取り上げたほか、戦後の文学運動の歩みを確認してきました。最近では、湯地朝雄『プロレタリア文学運動 その理想と現実』、『花田清輝vs吉本隆明論争』、『花田清輝『近代の超克』をめぐる』、60年代の武井昭夫の仕事、浅川史『魯迅文学を読む——竹内好『魯迅』の批判的検証』などを取り上げました。2011年後期は、武井昭夫の新著『創造としての革命——運動族の文化・芸術論』、湯地朝雄の仕事、核(原爆—原発)に向き合う文学(井上光晴、大田洋子ほか)などに取り組み予定です。奮ってご参加ください。日時等は追ってお知らせします。

②群読ゼミ

世話役＝小松厚子

台本づくりから朗読まで、参加者全員による共同制作を行ないます。この作業を通じて参加者がそれぞれに歴史について、また時代状況について学習をすすめる運動です。テーマは状況に応じてアップツウデイトなものも参加者の討議によって決められます。テーマが決まったら、全員がそれぞれに感銘した文言、思いを込めた文章を持ち寄ります。それらを素材に台本づくり、演出、音楽、朗読などの分担を行ないます。こうしてできあがった作品は反戦平和や憲法擁護、民主主義と人権のための集会等で上演されます。ゼミの開催日時は協議のうえ、決定します。

●これまでの制作・作品には、次のものがあります。

- 1) いま、私たちの労働現場から —— グローバル化と闘う世界の女性労働者との連帯
- 2) 私たちの戦争案内 —— 急速に進行する戦争体制づくりに抗して
- 3) 戦争を止めよう！ —— あなたも・日常から・世界の女性と共に
- 4) 戦争を止めよう！ II
- 5) いま、私たちの労働現場から II
- 6) 私たちはどういう社会をつくりたいのか —— 憲法改憲は誰のため？
- 7) 憲法改憲反対！ 忘れるな 戦争責任と不戦の誓い
- 8) 共闘こそ力！ —— 壊憲を許すな
- 9) 先に起つのは君だ —— 戦争・失業・貧困をなくそう
- 10) 憲法と原発 —— 目を覚ませ！ 未来の世代のために
- 11) 不安だらけの未来はいらない

●HOWS本科生・聴講生は、経験の有無にかかわらず、どなたでも参加できます。

HOWS講座カレンダー 2011年度後期 (10月～3月)

10月29日(土)	花田清輝と武井昭夫 武井昭夫『創造としての革命—運動族の文化・芸術論』をめぐる 報告＝湯地朝雄 (文芸評論家) / 進行＝立野正裕 (明治大学教授)
11月2日(水)	『原発切抜帖』(1982年 45分 監督＝土本典昭) 『源八おじさんとタマ』(2010年～2011年 全5作 10分3秒 制作：中村 徹) 解説＝木下昌明 (映画評論家) / 新田 進 (小川町シネクラブ)
11月5日(土)	<ロシア十月社会主義革命94周年記念> ソ連解体から20年、世界はどう変わったか 報告＝山下勇男 (社会主義理論研究)
11月9日(水)	韓統連の入国不許可問題——李明博政権の人権侵害状況 講師＝朴南仁 (在日韓国民民主統一連合国際局長)
11月16日(水)	石川淳作『マルスの歌』(『石川淳短編小説選』ちくま文庫) 講師＝立野正裕 (明治大学教授)
11月19日(土)	東日本大震災と労働組合 講師＝鳥井一平 (全統一労働組合副委員長、名無しの震災救援団)
11月25日(金)	原発撤廃・ストップ憲法審査会！ 憲法96条“改正”を許さない11・25集会 (HOWSも実行委員会に参加)
11月26日(土)	福島原発被災地の現場から 講師＝国分富夫 (南相馬からの原発避難者)
12月3日(土)	「教育を受ける権利」を手がかりに 報告＝藤原 晃 (神奈川高教組)
12月7日(水)	結審間近のJAL争議と社保庁の解雇をめぐる 講師＝内田妙子 (CCU委員長、JAL不当解雇撤回裁判原告団団長) / 飯塚 勇 (全厚生労働組合前執行委員長)
12月10日(土)	『へばの』(2008年 81分 脚本・監督：木村文洋) ゲスト＝木村文洋 (『へばの』監督)
12月14日(水)	大岡昇平作『捉まるまで』(『俘虜記』新潮文庫) 講師＝立野正裕 (明治大学教授)
12月17日(土)	福島原発事故から9か月——なにが起き、これからどうなるのか 講師＝今中哲二 (京都大学原子炉実験所助教)
1月18日(水)	島尾敏雄作『出発は遂に訪れず』(『その夏の今は・夢の中での日常』講談社文芸文庫) 講師＝立野正裕 (明治大学教授)
1月21日(土)	創造運動の論理——ズリ山の火を消すな 講師＝荒川源吾 (歌人、元・古河電産労組文学サークル) / 鎌田哲哉 (批評家、『重力』編集会議)
1月25日(水)	ドイモイ25年目のベトナム——市民による政治改革の要求 講師＝中野亜里 (大東文化大学教授) / 進行＝山口正紀 (ジャーナリスト)
1月28日(土)	国鉄闘争の成果と教訓を継承する運動を！ 講師＝二瓶久勝 (前国鉄闘争共闘会議議長)
2月1日(水)	原発の安全性に関する立法・行政・司法のスタンス 講師＝青木秀樹 (弁護士)
2月4日(土)	社会主義キューバのいま——世界経済の危機と第6回大会 (2011年4月) ゲスト＝2011年7月関西キューバ訪問団
2月8日(水)	均等法25年目の現実とどう闘うか 報告＝本郷文化フォーラム女性労働問題研究会
2月11日(土)	八重山の教科書採択問題にみる沖縄県民の戦争・平和意識 講師＝仲井間郁江 (琉球新報記者)
2月15日(水)	大田洋子作『半人間』(講談社文芸文庫) 講師＝立野正裕 (明治大学教授)
2月18日(土)	戦争・戦後責任と天皇制、朝鮮問題 講師＝李英哲 (朝鮮大学校教員) / 遠藤裕二 (編集者)
2月25日(土)	写真家が語る沖縄——基地・自然・闘う人々 講師＝山本英夫 (フォトグラファー)
2月29日(水)	憲法破壊の司法反動化 講師＝山口正紀 (ジャーナリスト) / 新田 進 (労働運動研究／小川町シネクラブ)
3月4日(日)	<国際婦人デー集会> 起ちあがろう！ 原発撤廃・改憲阻止・女性の権利擁護を掲げて(仮題)
3月7日(水)	『隠された被曝労働 日本の原発労働者』(1995年 24分 制作：イギリス・チャンネル4 日本語版制作：岩佐基金) ゲスト＝岩下雅裕 (福島原発事故緊急会議・電力総連申し入れプロジェクト、立川自衛隊監視テント村)
3月10日(土)	かつての全通運動から学ぶもの—— 一分会役員の経験から 講師＝山田 勇 (元全通東京中郵支部第一特殊郵便分会書記長) / 土田宏樹 (J P 労組)
3月14日(水)	社会主義こそ未来だ！—— 第13回共産党労働者党国際会議 (2011年12月、於アテネ) 報告＝＜活動家集団 思想運動＞理論研究部
3月17日(土)	サンフランシスコ講和会議から60年——ここまで来ている教育を通じた壊憲思想づくり 講師＝高嶋伸欣 (琉球大学名誉教授)
3月21日(水)	震災後の学校と子ども—— 給食の現状と子どもの被曝 報告＝栗原美子 (学校栄養士)
3月31日(土)	戦後の歴史教育に欠けているもの——アジアの女性の視点から 講師＝中原道子 (『戦争と女性への暴力』リサーチアクションセンター)